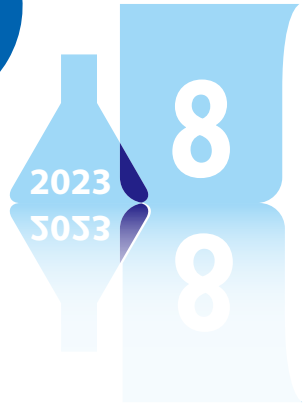
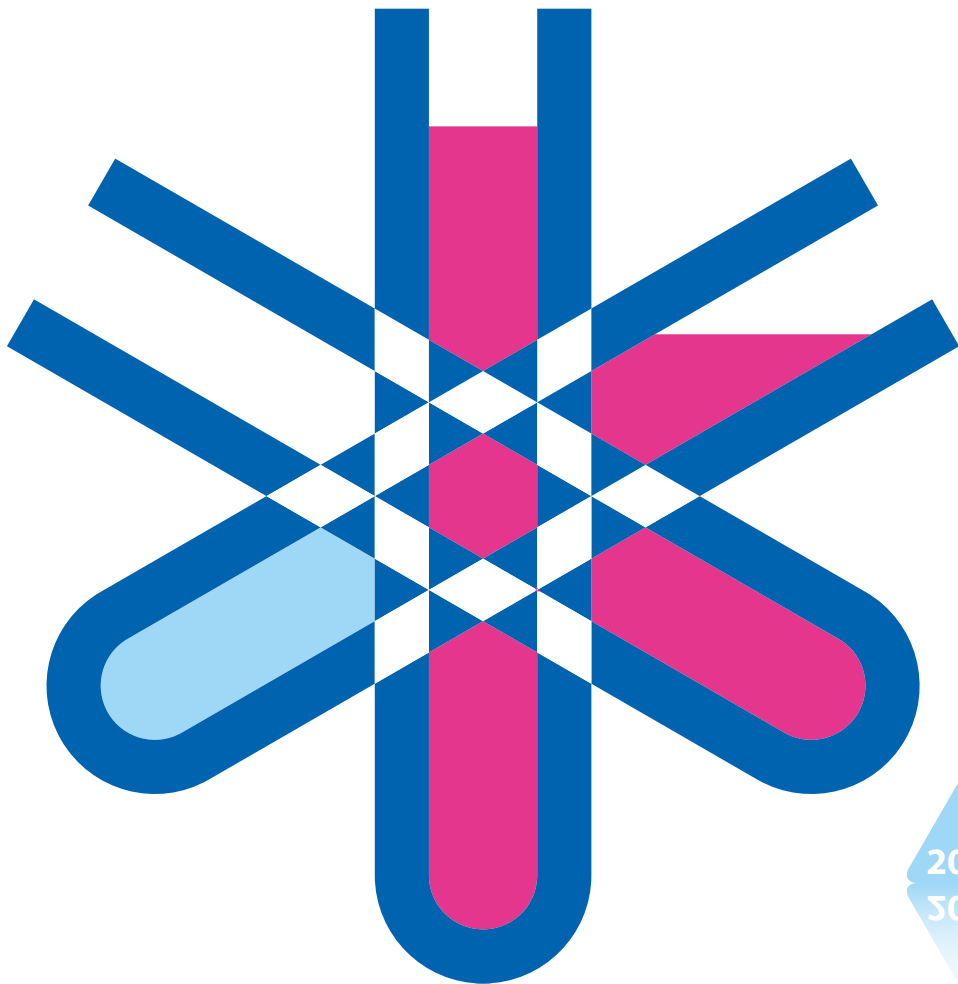


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和5年8月号 目次

【検査結果】

横浜市における2022/2023シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析 …	1
農産物の残留農薬検査結果（令和5年6月）	4
簡易専用水道及び小規模受水槽水道の水質事故の検査結果 （令和4年度）	6

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年7月）	9
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和5年7月）	11
----------------------------	----

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

横浜市における2022/2023シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析

- 横浜市における2022/2023シーズンのインフルエンザの流行は、定点あたり報告数の合計は125.2人であり、過去10年間で8番目の規模の流行でした。
- 2022/2023シーズンはAH3型ウイルスが流行の主流であり、病原体定点ウイルス調査におけるウイルス分離・検出数の割合は、AH3型ウイルス81.1%、AH1pdm09ウイルス14.9%、ビクトリア系統のB型ウイルス4.1%でした。
- AH3型ウイルス、AH1pdm09ウイルス及びビクトリア系統のB型ウイルスの分離株の抗原性状は、HI試験においてワクチン株と同等～4倍差以内の反応性がみられ、ワクチン株と類似の傾向がみられました。

【インフルエンザ患者数】 集計期間:2022年9月(2022年第36週)から2023年5月(2023年第22週)

この集計期間にインフルエンザ定点から報告されたインフルエンザ患者数は定点あたり125.2人であり、インフルエンザの流行がなかった過去2シーズン同期間の0.1人を大きく上回りました。過去10年間では8番目の規模の流行でした。インフルエンザの定点あたり患者数は2022年第51週に流行の目安となる1.0人を超える2.55人となり、2023年第5週のピーク時には13.07人と最大の報告数になりました。その後、2023年第15週には定点あたり1.0人を下回ったものの、第16週に1.45人、第17週から第19週まで1.0人未満、第20週に1.06人、第21週及び第22週は1.0人未満と定点あたり患者数の増減を繰り返しました(図1)。

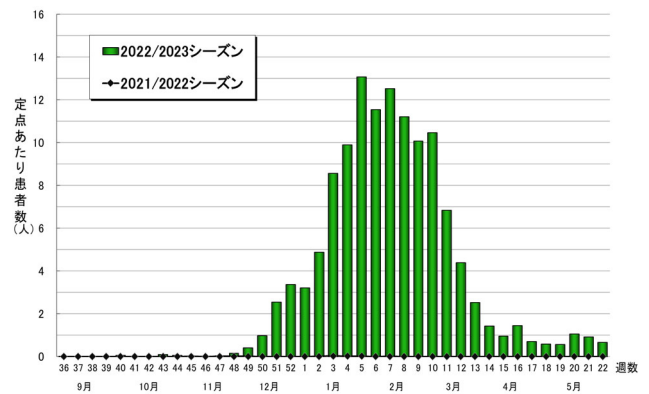


図1 定点あたり患者数

【病原体定点ウイルス調査】 集計期間:2022年9月(2022年第36週)から2023年5月(2023年第22週)

病原体定点ウイルス調査では321件を検査し、AH3型ウイルス60件(81.1%)AH1pdm09ウイルス11件(14.9%)、ビクトリア系統のB型ウイルス3件(4.1%)の計74件が分離・検出されました。

この集計期間には12月第49週に戸塚区の内科定点でAH3型ウイルスが、1月第2週に港南区の小児科定点でAH1pdm09ウイルスが、2月第8週に青葉区の小児科定点からビクトリア系統のB型ウイルスがはじめて分離・検出されました。この期間はAH3型ウイルスが流行し、1月第4週及び第8週をピークとして分離・検出されました。また、AH1pdm09ウイルス及びビクトリア系統のB型ウイルスはシーズンを通して散発的に分離・検出されました。山形系統のB型ウイルスは分離・検出されませんでした(図2)。

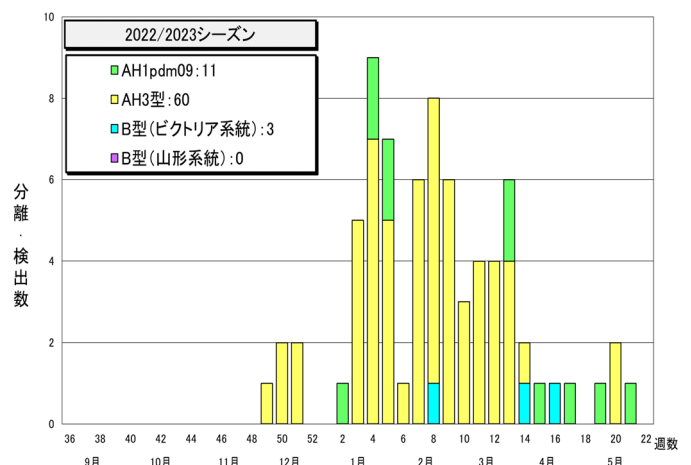


図2 病原体定点インフルエンザ分離・検出状況

【施設別発生状況調査】

地域流行を捉える施設別発生状況調査では、2022年12月12日(2022年第50週)に瀬谷区の小学校から初報告があり、AH3型ウイルスが分離・検出されました。その後、発生報告は増加し、1月第3週をピークとして3月までに全ての区で調査しました。検査依頼のあった全18集団51人についてウイルス学的調査を実施したところ、AH1pdm09ウイルス3件及びAH3型ウイルス41件が分離・検出されました(表1)。なお、2022年第36週～2023年第28週の学級閉鎖発生数は18区347施設315学級でした。

表1 施設別発生状況調査の結果

発生年月日 (採取日)	週	区	施設	検体数	ウイルス分離		遺伝子検索		総合判定
					分離 株数	型	検出 件数	HA 遺伝子	
2022.12.12	第50週	瀬谷	小学校	4	4	AH3	4	AH3	AH3
12.19	第51週	磯子	小学校	3	3	AH3	3	AH3	AH3
12.19	第51週	都筑	小学校	3	2	AH3	1	AH3	AH3
12.22	第51週	鶴見	小学校	3	3	AH3	1	AH3	AH3
2023.1.13	第2週	旭	小学校	2	2	AH3	1	AH3	AH3
1.16	第3週	港北	小学校	3	3	AH3	2	AH3	AH3
1.16	第3週	港南	小学校	4	3	AH1pdm09	0	陰性	AH1pdm09
1.17	第3週	西	小学校	3	3	AH3	3	AH3	AH3
1.17	第3週	青葉	小学校	3	2	AH3	1	AH3	AH3
1.17	第3週	金沢	小学校	3	3	AH3	2	AH3	AH3
1.17	第3週	泉	小学校	3	3	AH3	1	AH3	AH3
1.20	第3週	中	小学校	2	2	AH3	2	AH3	AH3
1.23	第4週	緑	小学校	2	1	AH3	0	AH3	AH3
1.24	第4週	保土ヶ谷	小学校	3	3	AH3	1	AH3	AH3
1.24	第4週	戸塚	小学校	2	2	AH3	0	陰性	AH3
1.30	第5週	神奈川	小学校	3	3	AH3	2	AH3	AH3
1.31	第5週	南	小学校	2	2	AH3	1	AH3	AH3
3.7	第10週	栄	小学校	3	0	陰性	0	陰性	陰性
合計		18区	18施設	51件	44株	AH1pdm09:3株 AH3:41株	25件	AH3: 25件	AH1pdm09:3件 AH3:41件

【入院サーベイランス】

入院サーベイランス(その他依頼検査を含む)では、インフルエンザ等を疑う27件を検査しましたが、インフルエンザウイルスは分離・検出されませんでした。

【全調査まとめ】

全調査の検査合計は399件で、AH3型ウイルス101件(85.6%)、AH1pdm09ウイルス14件(11.9%)、ビクトリア系統のB型ウイルス3件(2.5%)の計118件のウイルスが分離・検出されました(表2)。

表2 インフルエンザウイルス分離・遺伝子検査結果

各調査項目	インフルエンザ検査数	分離・検出数	AH1pdm09	AH3型	B型(ビクトリア)	B型(山形)
病原体定点等調査	321	74	11	60	3	0
施設別発生状況調査	51	44	3	41	0	0
入院サーベイランス*	27	0	0	0	0	0
合計	399	118	14	101	3	0

* その他依頼検査を含む

【分離株の抗原性】

AH3型ウイルス、AH1pdm09ウイルス及びビクトリア系統のB型ウイルスの分離株の抗原性状について、ウサギ免疫血清によるHI試験結果をまとめました(図3)。AH1pdm09ウイルスはワクチン株(A/Victoria/2570/2019)と、AH3型ウイルスはワクチン株(A/Darwin/9/2021)と、ビクトリア系統のB型ウイルスはワクチン株(B/Austria/1359417/2022)とすべて同等～4倍差以内の反応性を示し、ワクチン株と類似の傾向がみられました。

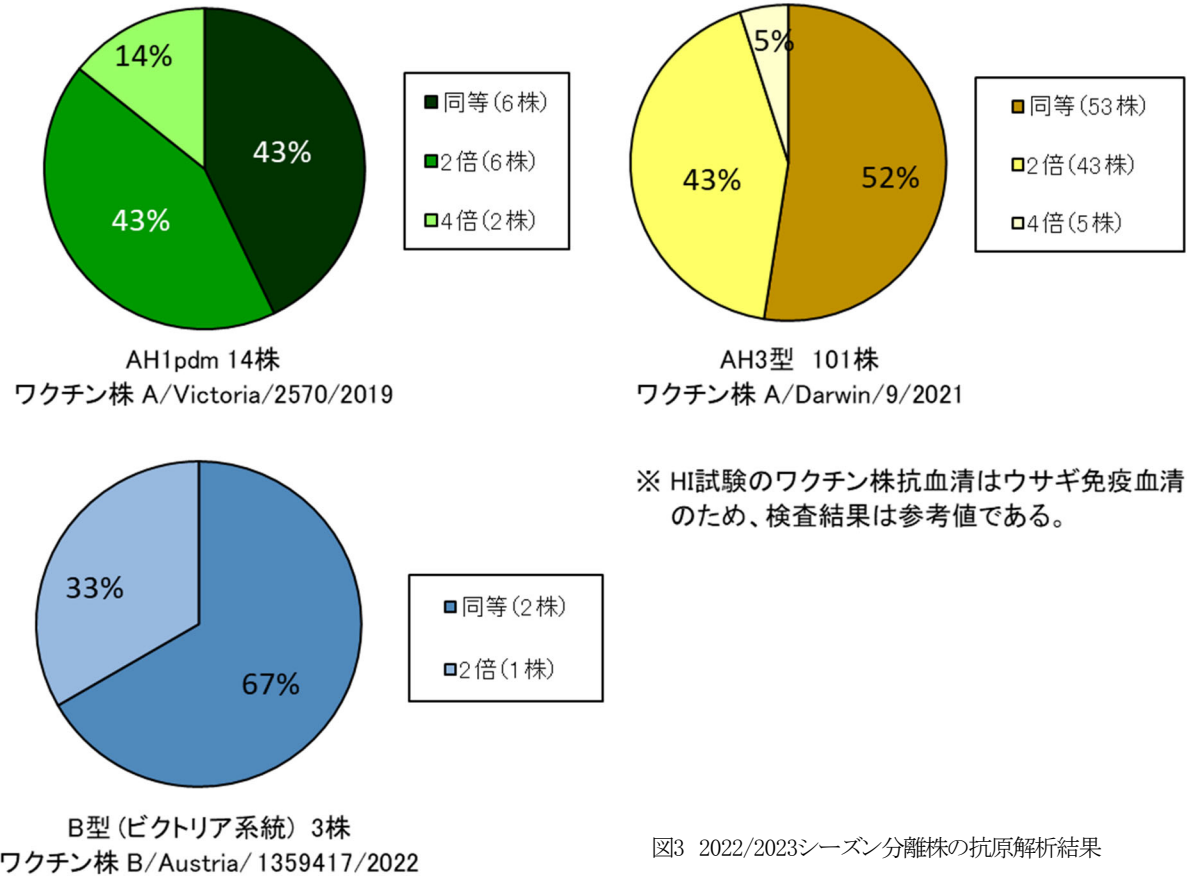


図3 2022/2023シーズン分離株の抗原解析結果

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 感染症・疫学情報課 】

農産物の残留農薬検査結果（令和5年6月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和5年6月に各区福祉保健センター及び医療局食品専門監視班が収去した市内産農産物の検査結果を報告します。

ばれいしょ8検体、こまつな5検体、にんじん4検体、きゅうり3検体、キャベツ、トマト及びレタス各2検体、だいこんの根及びブロッコリー各1検体の計28検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。こまつな3検体、きゅうり、トマト、にんじん、ブロッコリー及びレタス各1検体から延べ12項目の農薬が検出されましたが、基準値を超えたものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果 (令和5年6月)

農産物	検査検体数	農薬検出検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
キャベツ	2	0			
きゅうり	3	1	クロルフェナピル	0.02	0.5
			シアゾファミド	0.01	0.7
			ボスカリド	0.02	5
こまつな	5	3	シアゾファミド	0.05	15
			ジノテフラン	0.12	10
			シアゾファミド	0.80	15
			ジノテフラン	0.02	10
だいこんの根	1	0			
トマト	2	1	ジノテフラン	0.04	2
にんじん	4	1	ジノテフラン	0.02	1
ばれいしょ	8	0			
ブロッコリー	1	1	チアメトキサム	0.02	5
			ファモキサドン	0.02	3
レタス	2	1	ジノテフラン	0.01	25

注) 中括弧 () はそれぞれ同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
BHC (α、β、γ及びδの和)	0.005	○	—	—	—	○	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○
DDT (DDE、DDD、DDTの和)*	0.005	○	○	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	—	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	—	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○
アルドリン及びディルドリン	0.005	○	—	○	—	○	クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	○	クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○

表2(続き) 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
シハロリン	0.01	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○
シペルメリン	0.01	○	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○
チアクロブリド	0.01	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	ブromoプロピレート	0.01	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	—	—	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	ペルメリン	0.01	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	ベンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	—	—	○	ベンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
トリフロキシストロピン	0.01	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	—	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	—	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.005	○	○	○	—	○
フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	○

農産物の種類 A:こまつな、トマト、にんじん、ブロッコリー B:キャベツ、レタス C:きゅうり D:だいこんの根 E:ばれいしよ

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

簡易専用水道及び小規模受水槽水道の水質事故の検査結果 (令和4年度)

水道は戸建て住宅などの建物に直接給水したときに快適に利用できるように水圧が調整されています。このため水圧が不足する地域のおおむね3階建て以上の共同住宅などの建物では、受水槽(貯水槽)に水道水を一旦貯留してポンプの圧力で中高層階へ送る「受水槽式給水」が採用されています。「受水槽式給水」は屋上に設置された高置水槽に揚水ポンプで汲み上げ自然流下させ給水する「高置水槽方式」と高置水槽を経由せずに加圧(増圧)ポンプで給水する「加圧ポンプ(圧力タンク)方式」に分かれます。また、受水槽の大きさによって「簡易専用水道(水道法)」と「小規模受水槽水道(横浜市条例第56号*で定める)」に分けられます。

令和4年度に保健所から依頼を受けて検査した「簡易専用水道」と「小規模受水槽水道」の水質事故事例を2例報告します。

【事例1-簡易専用水道】 共同住宅

探知	令和4年11月、受水槽清掃の4日後に受水槽検査機関による法定検査を受検したところ、受水槽の水面に油分が浮遊し、青い異物が浮いている旨の情報提供を受けた。給水末端から異物は流出しておらず、住民からの苦情や問い合わせはない。
施設概要	地上12階建 705戸 令和3年2月給水開始
受水槽式給水設備概要	加圧ポンプ方式 受水槽3基No.1～No.3 (屋内地下、床上式、材質FRP、水槽数各1) 有効容量306m ³ (有効容量102m ³ ×3基) 高置水槽なし 給水配管材質:ステンレス管、ポリエチレン管
受水槽清掃	令和4年11月実施
法定検査	令和3年11月実施 受水槽No.3に油分の浮遊が確認されている。 令和4年11月実施 受水槽No.2及びNo.3に油分の浮遊、No.3に異物が浮いている。
試料	受水槽(No.3)水 異物2試料 受水槽(No.3)から採取した水中の青色異物(巻物状)、青色異物(紐状) (写真1 マイクロスコープ像 20倍、写真2 マイクロスコープ像 100倍)
現地調査	遊離残留塩素0.6mg/L、色・におい異常なし。 受水槽の3基のうちNo.2に油分が浮遊している。No.3に青色異物が浮いているが油分の浮遊は確認できなかった。

水質検査結果及び異物検査結果

検査項目	検査結果
水道法水質基準の理化学検査	亜硝酸態窒素0.004mg/L未満、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素0.49mg/L、塩化物イオン3.3mg/L、有機物(全有機炭素(TOC)の量)0.3mg/L未満、pH値7.3、臭気異常なし、色度0.56度、濁度0.1度未満。
青色異物検査	形状観察、燃焼試験、燃焼時臭、赤外分光分析の検査から青色異物(巻物状)はポリエチレン、青色異物(紐状)はポリプロピレンと推定された。

判定:水試料の8項目の検査では水質基準超過は認められなかった。異物は赤外分光分析においてライブラリー判定の結果からポリエチレン樹脂とポリプロピレン樹脂と推定された。

対応:受水槽No.2及びNo.3の使用を停止、清掃が保健所から所有者に指示され、翌日受水槽No.3の清掃、翌々日受水槽No.2の清掃が実施された。原因究明と健康被害の把握が行われた。

原因:油分についてはシリコーンオイル・炭化水素系油分・エステル系油脂の可能性が高いとの報告を受けた。混入していた油分、異物の混入経路は不明であった。

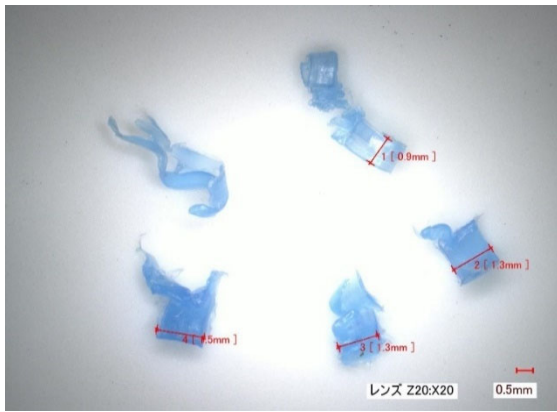


写真1 青色異物(巻物状)20倍

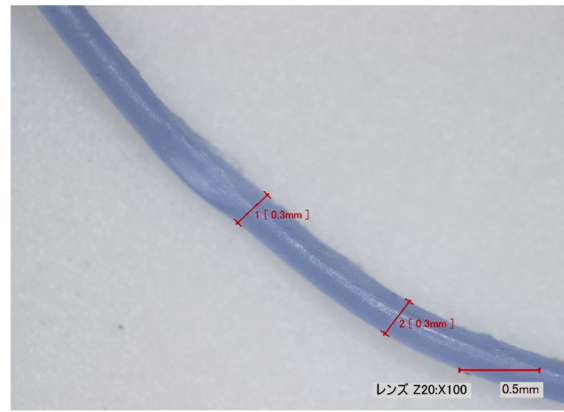


写真2 青色異物(紐状)100倍

【事例2-小規模受水槽水道】 事務所

探知	令和4年7月 「10日前から茶色の水が給水栓から出る。今日から黒い水道水が給水栓から出る」と5階利用者から保健所に連絡があった。
施設概要	地上9階建 昭和60年給水開始 給水開始届出が未提出であった。
受水槽式給水設備概要	高置水槽方式 受水槽(屋内、ビルピット、材質FRP、水槽数1) 有効容量5.4m ³ 水中ポンプ2基設置(No.1、No.2) 高置水槽(屋外、材質FRP、水槽数1、有効容量1.2m ³) 給水配管材質:塩ビライニング鋼管
受水槽清掃	実施せず
法定検査	実施せず
試料	採水した水4試料 ①ビルピット内のたまり水、②高置水槽水、③4階給水栓水、④水道直結水(1階)
現地調査	2階～9階の給水栓から硫黄臭の薄黒い水道水が給水されていた。 5階の給水栓の遊離残留塩素は検出されなかった。 1階は直結給水のため残留塩素0.2mg/L検出された。 ビルピットが水没していたため受水槽を確認できなかった。 (図1 水没した受水槽とビルピット内イメージ、図2 ビルピット内の様子)。 高置水槽の蓋が開かず内部を確認できなかった。

水質検査結果

検査項目	水道法水質基準などの理化学検査結果			
	①	②	③	④
ナトリウム(mg/L)	72	46	45	7.8
塩化物イオン(mg/L)	62	39	39	6.1
硬度(mg/L)	110	94	94	59
有機物(全有機炭素(TOC)の量)(mg/L)	28	13	8.3	0.41
臭気	腐敗性臭気	腐敗性臭気	腐敗性臭気	異常なし
色度(度)	240	280	130	0.5未満
濁度(度)	40	79	22	0.1未満
アンモニア態窒素(mg/L)	21	12	12	0.1未満
硝酸態窒素(mg/L)	0.1未満	0.1未満	0.1未満	0.8

判定:水試料①～③は有機物(全有機炭素(TOC)の量)、臭気、色度、濁度の項目が水道法水質基準を超過していた。また、水試料①～③は④水道直結水と比べてナトリウム、塩化物イオン、硬度、アンモニア態窒素の増加を認め、硝酸態窒素の減少を認めた。

対応:(1)保健所は所有者に対し、直ちに給水を停止し、受水槽清掃など早急な改善、利用者への周知などを指示した。

(2)受水槽の利用者(5階テナント)に給水する仮設直結工事が行われた。

(3)ビルピット内に溜まっていた雑排水の水抜きをしたところ、ビルピット内の配管(雑排水用)の亀裂があり、ビルピット内の排水用ポンプの故障により雑排水が溜まって、受水槽が水没したことが分かった。ビルピット内の雑排水を流す排水桝の詰まりを解消し、ビルピット内の清掃を実施した。

(4)再開に向けて保健所は「ビルピット内の配管(雑排水用)を撤去すること」、「配管(雑排水用)の撤去ができない場合は、既存受水槽を使用しない方法により給水できる方法を検討すること」、「汚染された既存配管(水道水用)の洗浄方法を提示すること」を指導した。

(5)所有者は新たな給水方式を検討したが機材(給水ポンプ)入手困難となったこと、5階のテナントが退去したことにより、令和4年12月現在、直結給水の1階のみ使用している。

原因:ビルピット内の配管(雑排水用)のつなぎ目に亀裂が生じ、雑排水が亀裂からビルピット内に漏れ出た。ビルピット内の水を排水するポンプが故障したため、受水槽が水没した。

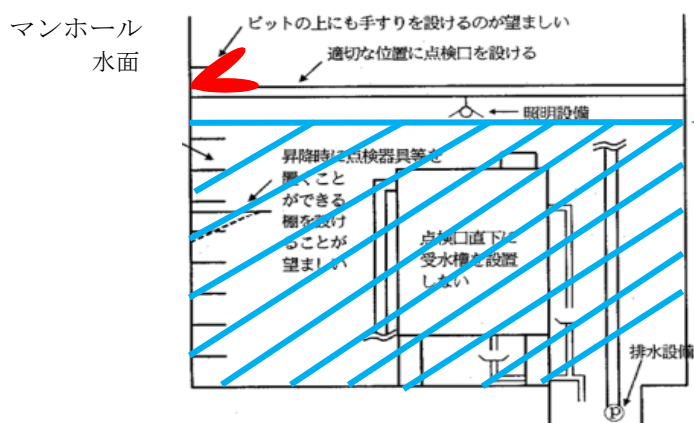


図1 水没した受水槽とビルピット内イメージ



図2 ビルピット内の様子

【まとめ】

事例1のようにプラスチック樹脂が異物として水道水に混入することがあります。事例2ではビルピット内に設置されている受水槽が雑排水で水没していました。水質の異常に早く気付くためには毎日、給水栓(蛇口)において水の色、濁り、臭い、味に異常がないか確認することが大切です。ポンプの故障をできるだけ早く探知するには運転音、電圧、電流、圧力の日常点検があげられます。「受水槽式給水」の場合、受水槽から給水栓(蛇口)までの管理は建物の所有者にゆだねられています。日頃から気にかけて異常があった際は保健所にご相談ください。

受水槽の有効容量が 10m^3 を超える「簡易専用水道」は水槽の定期的な清掃及び法定検査(1回/1年)を受け、水槽をいつも清潔な状態に保つようにします。横浜市では有効容量が少なく 10m^3 未満の「小規模受水槽水道」でも条例第56号*及び規則**では、受水槽清掃及び管理状況の定期検査を受け、水質事故を予防することとしています。詳しくはホームページ「受水槽の衛生管理に関する情報」をご確認ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/seikatsu/kaiteki/jusuisou.html>

*:横浜市簡易給水水道及び小規模受水槽水道における安全で衛生的な飲料水の確保に関する条例 第56号

** :横浜市簡易給水水道及び小規模受水槽水道における安全で衛生的な飲料水の確保に関する条例施行規則 第11号

衛生研究所ウェブページ情報（令和5年7月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和5年7月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和5年7月に追加・更新した主な記事は、14件でした。

掲載月日	内容
7月3日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果 熱中症情報(2023年7月3日) 感染症に気をつけよう(7月号)
7月6日	横浜市感染症臨時情報 ヘルパンギーナ
7月10日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第4回） 熱中症情報(2023年7月10日)
7月13日	横浜市感染症臨時情報 ヘルパンギーナ
7月18日	熱中症情報(2023年7月18日)
7月20日	横浜市感染症臨時情報 ヘルパンギーナ
7月24日	熱中症情報(2023年7月24日)
7月25日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果（速報版第5回）
7月27日	横浜市感染症臨時情報 ヘルパンギーナ
7月28日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
7月31日	熱中症情報(2023年7月31日)

2 記事紹介

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

熱中症情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/necchusho/index.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市感染症臨時情報 ヘルパンギーナ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/rinji/herpangina.html>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/kansen-center/byogentai/infckabaikai.html>

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年7月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は5類化以降、増加が続いています。基本的な感染対策なども含め、継続して注意が必要です。
- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症にも注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。

◇ 全数把握の対象

＜7月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	23件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	3件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	22件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	風しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件		

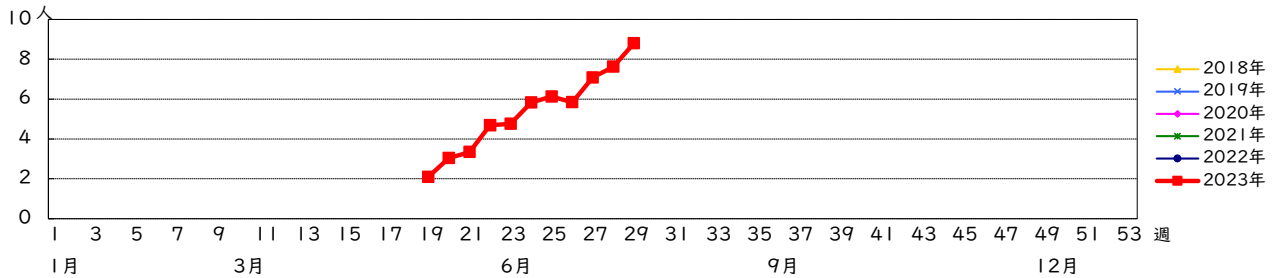
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清群O157が13件、O26が4件、Og82が1件、O91が1件、O103が1件、O145が1件、O血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が8件、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が13件ありました。
- 2 **E型肝炎**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **マラリア**:40歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症(肺炎型)**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～80歳代で、血清群はG群が2件、A群が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 8 **ジアルジア症**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、無1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 11 **水痘(入院例に限る)**:30歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 12 **梅毒**:20歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者3件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間15件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 13 **風しん**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第26週	6月26日～7月2日
第27週	7月3日～7月9日
第28週	7月10日～7月16日
第29週	7月17日～7月23日

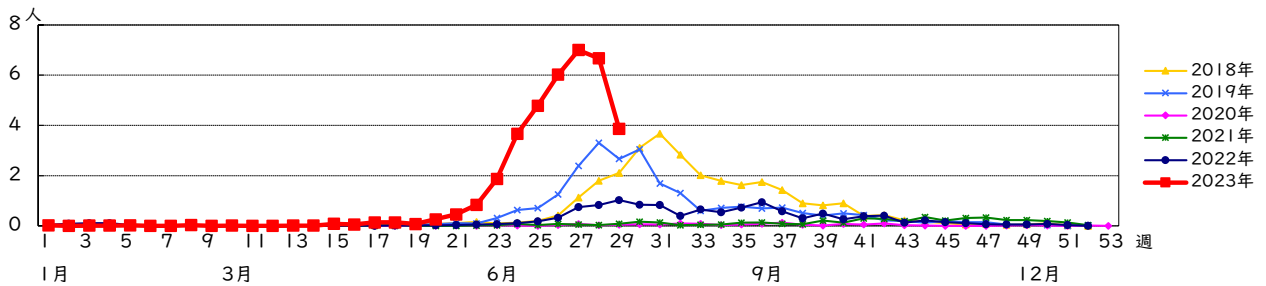
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第26週5.84、第27週7.09、第28週7.63、第29週8.80と推移しています。



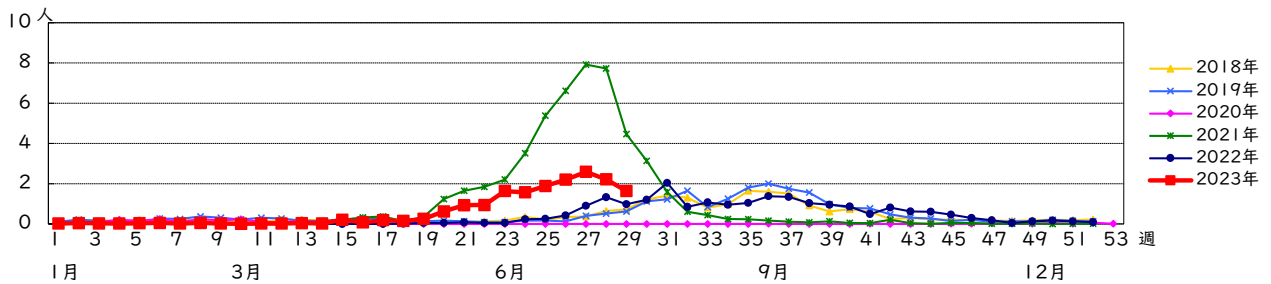
2 ヘルパンギーナ:

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第26週6.02で流行警報発令基準6.00を上回りました。第27週7.00でピークを迎え、第28週6.67、第29週3.87と推移しています。



3 RSウイルス感染症:

2023年第19週(0.26)以降増加しはじめ、第26週2.20、第27週2.59、第28週2.22、第29週1.64と推移しています。



4 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:6件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

7月期(2023年第26週～第29週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点3件、基幹定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

8月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離3株と遺伝子34件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2023年第26週～第29週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	主な臨床症状				
	上 気 道 炎	下 気 道 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	イン フル エン ザ	そ の 他
RSウイルス	- 1	- 7			
コクサッキーウイルス A2型	- 1		- 1		
コクサッキーウイルス A4型	- 1	- 1	- 3		
パラインフルエンザウイルス 3型	- 1				- 1
パラインフルエンザウイルス 4型	- 1	- 2			
ライノウイルス	- 3	- 1			
パレコウイルス 1型	- 1				
パレコウイルス 3型					- 2
パレコウイルス 型未同定		- 1			
ボガウイルス	- 3				
ヒトメタニューモウイルス	- 2	- 1			
インフルエンザウイルス AH3型				2 -	
アデノウイルス 2型	1 -				
合 計	1 14	- 13	- 4	2 -	- 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

7月期(2023年第26週～第29週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌3件、嫌気性グラム陰性桿菌1件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌(NTM)4件、薬剤耐性アシネトバクター1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌17件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌1件、侵襲性インフルエンザ菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌3件、肺炎球菌疑い1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点からマラリア2件、非定点から細菌遺伝子検索が1件、保健所からレジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎2件、胃腸炎・腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第26週～第29週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	3 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)		
		嫌気性グラム陰性桿菌	1 検査中(1)		
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	4 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (2)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2)		
		薬剤耐性アシネトバクター	1 検査中(1)		
保健所		腸管出血性大腸菌	17 O157:H7 VT1 VT2 (8)、O157:H7 VT2 (4)、O26:H- VT1 (2)、O103:H2 VT1 (1)、O145:H-(Hg28) VT2 (1)、Og82:Hg8 VT1 (1)		
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	1 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)		
		侵襲性インフルエンザ菌	4 <i>Haemophilus influenzae</i> (4)		
		劇症型溶血性レンサ球菌	3 G群溶血性レンサ球菌(2)、A群溶血性レンサ球菌(1)		
		肺炎球菌疑い	1 <i>Streptococcus mitis</i> group (1)		
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	血液(6/28)	マラリア	1	LAMP/Nested PCR <i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 海外渡航歴あり
		血液(6/29)	マラリア	1	LAMP/Nested PCR <i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 海外渡航歴あり
	非定点	心臓弁(M弁)	細菌遺伝子検索	1	16S rRNA遺伝子 PCR 陰性
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	培養陰性(1)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	2	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 陽性(1)、培養陰性(1)	
	直腸ぬぐい	胃腸炎・腸炎	1	消化器系病原菌 陰性(1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】